

都道府県中間年評価書 (集落協定等へのアンケート関係)

都道府県名	茨城県	担当部署	農村計画課
-------	-----	------	-------

Ⅳ アンケート調査の対象協定（集落）等数

	協定等数		アンケート実施 協定等数	
	協定	集落	協定	集落
集落協定	88	協定	17	協定
個別協定		協定	0	協定
廃止協定		協定	1	協定
未実施集落		集落	8	集落
市町村	6	市町村	5	市町村

V-1 集落協定へのアンケート調査結果の評価

1 集落協定の範囲等

(1) 協定対象農用地と農業集落の農用地の範囲（範囲の図は別添のとおり）

	協定数		割合	
① 1つの集落協定の中に、複数の農業集落がある例-1	1	協定	5.882	%
② 1つの集落協定の中に、複数の農業集落がある例-2	2	協定	11.76	%
③ 1つの集落協定の中に、1つの農業集落がある例-1	12	協定	70.59	%
④ 1つの集落協定の中に、1つの農業集落がある例-2	3	協定	17.65	%
⑤ 1つの農業集落の中に、複数の集落協定がある例-1		協定	0	%
⑥ 1つの農業集落の中に、複数の集落協定がある例-2		協定	0	%

(2) 集落協定の話合いの持ち方

	協定数		割合	
① 中山間地域等直接支払制度のための話合いを開催	14	協定	82.35	%
② 地域の他の話合いとともに、中山間地域等直接支払制度の話合いを開催	4	協定	23.53	%

2 集落戦略

(1) 集落戦略の作成に当たっての工夫

	協定数		割合	
① アンケートや戸別訪問等により、話合いの方法を工夫した	1	協定	5.882	%
② 話合いをリードする者を活用して進めた	4	協定	23.53	%
③ 市町村や関係機関の協力を得て進めた	2	協定	11.76	%
④ 協定参加者が、今後も健在であることを前提として作成を進めた	8	協定	47.06	%
⑤ 担い手やリーダーの確保、農地中間管理機構への農地の貸付等に取り組んでいくことを前提に作成を進めた		協定	0	%
⑥ 集落戦略の作成範囲を分割し、一つの話合いの単位を小さくして作成した	1	協定	5.882	%
⑦ その他		協定	0	%
⑧ 特になし		協定	0	%
⑨ まだ作成していない	6	協定	35.29	%

(2) 集落戦略の作成の効果

	協定数		割合	
①集落営農を組織化・法人化した又はその計画がある		協定	0	%
②認定農業者や新規就農者を確保した又は確保する計画がある	1	協定	5.882	%
③集落でまとまって農地中間管理機構に農用地を貸し付けた又はその手続きを進めている		協定	0	%
④一部の農用地を農地中間管理機構に貸し付けた又はその手続きを進めている		協定	0	%
⑤担い手に農用地を貸し付けた又はその計画がある（農地中間管理機構を使わないケース）	2	協定	11.76	%
⑥基盤整備等により耕作条件を改善した又はその計画がある		協定	0	%
⑦スマート農業等の省力化技術を導入した又はその計画がある	1	協定	5.882	%
⑧耕作条件が劣る農地の粗放的管理や林地化を実施又はその計画がある	2	協定	11.76	%
⑨鳥獣害対策を実施した又はその計画がある	3	協定	17.65	%
⑩所得確保のため高収益農産物の生産や加工等を始めた又はその計画がある	1	協定	5.882	%
⑪他の協定等との統合・連携をした又はその計画がある	2	協定	11.76	%
⑫高齢者等への声掛けや見守り等の生活支援活動を開始した又はその計画がある	2	協定	11.76	%
⑬特に何もしていない	7	協定	41.18	%
⑭その他	2	協定	11.76	%

2の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・集落戦略を作成することで、集落の将来像が見えてくるため、未実施の協定に対し、作成に向けた積極的な支援が必要である。

2の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・集落戦略だけにこだわらず、いろいろなことを話し合う機会をつくりじっくり進めても良いのでは。
 ・集落戦略を作成することで持続可能な集落を形成できるだろう。作成に向けて積極的な支援をしたい。
 ・集落戦略の将来像は考えにくい状況が理解できる。アンケートやリード者の協力、関係機関の協力など多様な支援が必要である。しかし、集落戦略を作成した組織では一定程度の効果が認められることから、行政としての支援を充実してもらいたい。

※ アンケート対象の集落協定数が5未満の都道府県は、「V-1 集落協定へのアンケート調査結果の評価」中の「都道府県の所見」と「第三者機関の意見」は省略可能

3 加算措置に取り組む際に中心となった者

	協定数				
	広域化加算	集落機能強化加算	生産性向上加算	棚田加算	超急傾斜加算
①協定代表者	(0%)	1 (6%)	(0%)	(0%)	(0%)
②協定代表者以外の協定参加者	(0%)	1 (6%)	(0%)	(0%)	(0%)
③統合された集落協定又は集落の側から	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)
④市町村等の行政からの働きかけ	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)
⑤その他	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)

4 第5期対策における本制度の効果について

(1) 本制度に取り組まなかった場合に協定対象農地が荒廃農用地になっていた割合

	協定数		割合	
①協定対象農用地の1割未満	8	協定	47.06	%
②協定対象農用地の1～3割	6	協定	35.29	%
③協定対象農用地の3～5割	1	協定	5.882	%

④ 協定対象農用地の5割以上	1	協定	5.882	%
⑤ 荒廃化していない	2	協定	11.76	%

(2) 隣接する集落の状況

ア 隣接する集落の本制度の取組状況

	協定数		割合	
①隣接する集落は本制度に取り組んでいる	5	協定	29.41	%
②隣接する集落は本制度に取り組んでいない	8	協定	47.06	%
③隣接する集落が本制度に取り組んでいるか分からない	5	協定	29.41	%

イ 本制度に取り組んでいない隣接集落の農用地の荒廃状況

	協定数		割合	
①ここ数年、荒廃した農地が目立ってきた		協定	0	%
②ここ数年、耕作されていない農用地が目立ってきた	6	協定	35.29	%
③以前と変わらない	2	協定	11.76	%
④以前よりも荒廃や耕作されていない農用地が減った		協定	0	%
⑤その他		協定	0	%

(3) 本制度や加算に取り組んだことによる効果

	協定数					
	ア 制度による全体の効果	イ 加算に取り組んだことによる効果				
		広域化加算	集落機能強化加算	生産性向上加算	棚田加算	超急傾斜加算
①荒廃農地の発生防止	17 (100%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
②水路・農道等の維持、地域の環境が保全された	15 (88%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
③農業機械等の共同利用により作業が効率化した	2 (12%)	0 (0%)	2 (12%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
④農業（農外）収入が増加した	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑤集落営農の組織化・法人化、新規就農者等の担い手を確保（増加）した	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑥担い手への農地の集積・集約が進んだ	5 (29%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑦鳥獣被害が減少した	8 (47%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑧荒廃農地を再生した	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑨都市住民等との交流が増加した	1 (6%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑩定住者等を確保した	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑪地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）を開始（拡大）した	0 (0%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑫集落の寄り合いや行事等の集落機能が維持された	4 (24%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑬その他	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
⑭特に効果は感じられない	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)

4の(1)から(3)について都道府県の所見【必須】

・本制度に取り組んでいない隣接集落において、耕作していない農地が目立っているとの意見が多いが、本事業に取り組むことにより、荒廃農地の発生防止や環境整備に取り組めており、小規模の農業者への農業活動の支援に貢献できていると感じる。制度の取組拡大が望まれる。

4の(1)から(3)について第三者機関の意見【必須】

・耕作放棄の抑制、鳥獣被害の減少に効果を発揮している。
 ・近隣の集落との交流が少ないようなのが気になる。交流のきっかけづくりも必要。集落同士が協力する体制を城、農地の荒廃を防ぎたい。
 ・取組による効果がみられるので、隣接集落などに啓発する。
 ・本取組の多くの効果が確認されているので、継続して取組拡大を期待したい。

5 集落協定が実施している各種の活動

(1) 集落協定が実施している活動

	協定数	
	ア 現在実施している活動	イ 今後実施予定の活動（今後も継続する活動含む）
①協定対象農用地以外の農用地の保全活動（草刈り、耕起、畦畔の草刈り、法面の管理等）	9 (53%)	5 (29%)
②協定対象農用地に隣接しない農道・水路等の維持・管理活動（多面的機能支払による活動を含む）	3 (18%)	3 (18%)
③鳥獣緩衝帯の設置・草刈り	5 (29%)	2 (12%)
④維持できなくなった農地の林地化（計画的な植林）	1 (6%)	1 (6%)
⑤農作業の共同化	2 (12%)	2 (12%)
⑥農業機械の共同利用	2 (12%)	2 (12%)
⑦鳥獣害対策	9 (53%)	4 (24%)
⑧放牧、景観作物の栽培等の粗放的農地利用	4 (24%)	3 (18%)
⑨都市住民との交流活動	(0%)	(0%)
⑩農産物の販売・加工	(0%)	(0%)
⑪地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）	1 (6%)	2 (12%)
⑫生き物観察や生物保全活動	(0%)	(0%)
⑬その他	(0%)	(0%)
⑭協定対象農用地の保全活動、農道・水路等の維持・管理活動以外の活動はしていない	5 (29%)	6 (35%)

(2) (1)の活動に当たっての連携組織

	協定数	
	ア 現在実施している活動	イ 今後実施予定の活動（今後も継続する活動含む）
①市町村、都道府県	4 (24%)	4 (24%)
②自治会、町内会	6 (35%)	5 (29%)
③子ども会、婦人会、青年会、老人会、地域の団体	3 (18%)	3 (18%)
④地域運営組織	1 (6%)	2 (12%)
⑤社会福祉協議会、NPO、社会福祉法人	(0%)	(0%)
⑥保育園・幼稚園、小・中学校、高等学校	(0%)	(0%)
⑦大学	(0%)	(0%)
⑧他の集落協定、集落営農組織、多面的機能支払交付金の活動組織、土地改良区、JA	1 (6%)	1 (6%)
⑨民間企業	(0%)	(0%)
⑩地域おこし協力隊	(0%)	1 (6%)
⑪その他	(0%)	(0%)
⑫連携している組織はない	8 (47%)	5 (29%)

5の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・協定対象農用地以外の保全活動をしている協定がいくつかあることが分かり、半数以上が他の組織と連携をした活動を実施しているが、連携していない協定も見受けられるため将来の継続に向けて、対象農用地外との連携支援が課題である。

5の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

- ・集落協定の活動と自治会等の活動を分けているだけで、実際には同じメンバーで各種の活動を実施しているケースもあるのではないだろうか。
- ・農地の保全や農村環境を衛には農家だけでは限界がある。多くの組織や人との連携が重要になってくる。
- ・大学、NPO、地域おこし協力隊などとの連携支援なども検討課題。
- ・連携組織を募るのにあたり、マッチングさせる支援が必要なのではないか。例えば、県内の大学では現地での連携を求めることも可能と考える。

V-2 個別協定へのアンケート調査結果の評価

1 第5期対策における本制度の効果

(1) 本制度に取り組みなかった場合に協定対象農用地が荒廃農地になっていた割合

	協定数	割合
①協定対象農用地の1割未満	協定	%
②協定対象農用地の1～3割	協定	%
③協定対象農用地の3～5割	協定	%
④協定対象農用地の5割以上	協定	%
⑤荒廃化していない	協定	%

(2) 隣接する集落の状況

ア 隣接する集落の本制度の取組状況

	協定数	割合
①隣接する集落は本制度に取り組んでいる	協定	%
②隣接する集落は本制度に取り組んでいない	協定	%
③隣接する集落が本制度に取り組んでいるか分からない	協定	%

イ 本制度に取り組んでいない隣接集落の農用地の荒廃状況

	協定数	割合
①ここ数年、荒廃した農地が目立ってきた	協定	%
②ここ数年、耕作されていない農用地が目立ってきた	協定	%
③以前と変わらない	協定	%
④以前よりも荒廃や耕作されていない農用地が減った	協定	%
⑤その他	協定	%

(3) 本制度に取り組んだことによる効果

	協定数	割合
①荒廃農地の発生防止	協定	%
②水路・農道等の維持、地域の環境が保全された	協定	%
③農業機械等の共同利用により作業が効率化した	協定	%
④農業（農外）収入が増加した	協定	%
⑤集落営農の組織化・法人化、新規就農者等の担い手を確保（増加）した	協定	%
⑥担い手への農地の集積・集約が進んだ	協定	%
⑦鳥獣被害が減少した	協定	%
⑧荒廃農地を再生した	協定	%
⑨都市住民等との交流が増加した	協定	%
⑩定住者等を確保した	協定	%
⑪地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）を開始（拡大）した	協定	%
⑫集落の寄り合いや行事等の集落機能が維持された	協定	%
⑬その他	協定	%
⑭特に効果は感じられない	協定	%

1の(1)から(3)について都道府県の所見【必須】

・茨城県に個別協定なし

1の(1)から(3)について第三者機関の意見【必須】

・意見なし

※ アンケート対象の個別協定数が5未満の都道府県は、「V-2 個別協定へのアンケート調査結果の評価」中の「都道府県の所見」と「第三者機関の意見」は省略可能

2 今後の経営意向

(1) 経営規模の拡大意向

	協定数	割合
①規模拡大の意向がある	協定	%
②現状維持	協定	%
③規模拡大より農地を集約したい	協定	%
④規模を縮小したい(農業経営をやめる意向を含む)	協定	%

(2) 規模拡大に当たっての農用地の条件

	協定数	割合
①農地面積や圃場条件にはこだわらない	協定	%
②基盤整備済みの圃場であること	協定	%
③農業用水(灌水施設を含む)が利用できること	協定	%
④鳥獣害防止柵等の対策が講じられていること	協定	%
⑤農道の整備やほ場に大型機械が入ること	協定	%
⑥日当たりや水はけの良い圃場であること	協定	%
⑦環境保全型農業に適した圃場であること	協定	%
⑧ほ場が面的にまとまっていること	協定	%
⑨賃料が安いこと	協定	%
⑩その他	協定	%

2の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・茨城県に個別協定なし

2の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・意見なし

V-3 廃止協定へのアンケート調査結果の評価

1 第4期末まで協定対象農用地として維持・管理してきた農用地の現在の状況

	元協定数	割合
① 荒廃した農用地がある	2 協定	200 %
② 作付けしない農用地がある	2 協定	200 %
③ 転用された農用地がある	協定	0 %
④ 林地化（植林）された農用地がある	協定	0 %
⑤ 景観作物の作付や放牧等の粗放的利用されている農用地がある	協定	0 %
⑥ 担い手から所有者に返還された農用地がある	協定	0 %
⑦ 担い手に貸し付けされた農用地がある	協定	0 %
⑧ 鳥獣被害が発生している	1 協定	100 %
⑨ 災害による被害を受けた農用地がある	協定	0 %
⑩ 基盤整備された農用地がある（令和2年4月以降）	協定	0 %
⑪ 以前と特に変わらない（令和2年4月以降）	協定	0 %
⑫ その他	協定	0 %

1について都道府県の所見【必須】

・ 廃止協定数 5 未満

1について第三者機関の意見【必須】

・ 廃止協定数 5 未満

※ アンケート対象の廃止協定数が5未満の都道府県は、「V-3 廃止協定へのアンケート調査結果の評価」中の「都道府県の所見」と「第三者機関の意見」は省略可能

2 集落の共同活動

(1) 現在の集落での共同活動

	元協定数	割合
① 農地の保全活動（草刈り、耕起、畦畔の草刈り、法面の管理等）	1 協定	100 %
② 農道・水路等の維持・管理活動（多面的機能支払による活動を含む）	2 協定	200 %
③ 鳥獣緩衝帯の設置・草刈り	1 協定	100 %
④ 維持できなくなった農地の林地化（計画的な植林）	協定	0 %
⑤ 農作業の共同化	協定	0 %
⑥ 農業機械の共同利用	協定	0 %
⑦ 鳥獣害対策	協定	0 %
⑧ 放牧、景観作物の栽培等の粗放的農地利用	協定	0 %
⑨ 都市住民との交流活動	協定	0 %
⑩ 農産物の販売・加工	協定	0 %
⑪ 地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）	協定	0 %
⑫ 生き物観察や生物保全活動	協定	0 %
⑬ その他	協定	0 %
⑭ 集落で共同活動は実施していない	協定	0 %

(2) 現在の共同活動の参加者の数

	元協定数	割合
① 集落協定の活動していた当時より減った	2 協定	200 %
② 集落協定の活動していた当時より増えた	協定	0 %
③ 集落協定の活動していた当時と変わらない	協定	0 %

2の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・ 廃止協定数 5 未満

2の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・ 廃止協定数 5 未満

3 5年後（令和10年度）の集落の状況

(1) 「話し合い」や「行事」のまとめ役（リーダー）となる者の5年後の有無

	元協定数	割合
①いる	0 協定	0 %
②いない	2 協定	200 %

(2) 地域の農業の「担い手」の5年後の有無

	元協定数	割合
①いる	1 協定	100 %
②いない	1 協定	100 %

(3) 集落の農用地の5年後の荒廃状況

	元協定数	割合
①集落の農用地の1割未満が荒廃する	0 協定	0 %
②集落の農用地の1～3割が荒廃する	0 協定	0 %
③集落の農用地の3～5割が荒廃する	1 協定	100 %
④集落の農用地の5割以上が荒廃する	1 協定	100 %
⑤荒廃化しない	0 協定	0 %

3の(1)から(3)について都道府県の所見【必須】

・廃止協定数5未満

3の(1)から(3)について第三者機関の意見【必須】

・廃止協定数5未満

4 集落協定の範囲等

(1) 元協定対象農用地と農業集落の農用地の範囲（範囲の図は別添のとおり）

	協定数	割合
①1つの集落協定の中に、複数の農業集落がある例-1	0 協定	0 %
②1つの集落協定の中に、複数の農業集落がある例-2	0 協定	0 %
③1つの集落協定の中に、1つの農業集落がある例-1	0 協定	0 %
④1つの集落協定の中に、1つの農業集落がある例-2	2 協定	200 %
⑤1つの農業集落の中に、複数の集落協定がある例-1	0 協定	0 %
⑥1つの農業集落の中に、複数の集落協定がある例-2	0 協定	0 %

(2) 集落協定の話し合いの持ち方

	協定数	割合
①中山間地域等直接支払制度のための話し合いを開催	1 協定	100 %
②地域の他の話し合いとともに、中山間地域等直接支払制度の話し合いを開催	1 協定	100 %

5 近隣の集落協定から誘いがあった場合の対応

	元協定数	割合
①元協定参加農家の中には、参加する農家もいると思われる	1 協定	100 %
②活動に参加する農家はない	1 協定	100 %
③近隣集落に協定がない	0 協定	0 %

5について都道府県の所見【必須】

・廃止協定数5未満

5について第三者機関の意見【必須】

・廃止協定数5未満

V-4 未実施集落へのアンケート調査結果の評価

1 現在の集落の状況

(1) 「話し合い」や「行事」のまとめ役（リーダー）となる者の有無

	集落数	割合
①いる	4 集落	50 %
②いない	4 集落	50 %

(2) 地域の農業の「担い手」の有無

	集落数	割合
①いる	3 集落	38 %
②いない	5 集落	63 %

(3) 現在の集落での共同活動

	集落数	割合
①農地の保全活動（草刈り、耕起、畦畔の草刈り、法面の管理等）	2 集落	25 %
②農道・水路等の維持・管理活動（多面的機能支払による活動を含む）	6 集落	75 %
③鳥獣緩衝帯の設置・草刈り	1 集落	13 %
④維持できなくなった農地の林地化（計画的な植林）	集落	0 %
⑤農作業の共同化	集落	0 %
⑥農業機械の共同利用	集落	0 %
⑦鳥獣害対策	2 集落	25 %
⑧放牧、景観作物の栽培等の粗放的農地利用	集落	0 %
⑨都市住民との交流活動	1 集落	13 %
⑩農産物の販売・加工	2 集落	25 %
⑪地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）	3 集落	38 %
⑫生き物観察や生物保全活動	集落	0 %
⑬その他	集落	0 %
⑭集落で共同活動は実施していない	1 集落	13 %

1の(1)から(3)について都道府県の所見【必須】

今回、アンケートを実施した集落では、半数がまとめ役及び担い手がいないとの回答があった。事業に取り組むには、まとめ役と担い手は必須であるので、広域化を視野にした支援が必要と思われる。

1の(1)から(3)について第三者機関の意見【必須】

- ・自治会等、地域の様々な集団・組織からのあて職で役員を選出し取り組んでいる例もある。
- ・広域化することで人材を確保することを視野に入れたい。
- ・リーダー、まとめ役、担い手などを養成する制度のようなものが必要ではないか。
- ・事務の簡略化と役割負担の縮小化を検討すべき

※ アンケート対象の未実施協定数が5未満の都道府県は、「V-4 未実施集落へのアンケート調査結果の評価」中の「都道府県の所見」と「第三者機関の意見」は省略可能

2 農用地の状況

(1) 農用地の耕作者

	集落数	割合
①地域の担い手が主に耕作	集落	0 %
②地域の担い手と各農家がそれぞれ耕作	5 集落	63 %
③各農家がそれぞれ耕作	3 集落	38 %
④ほとんどの農地が荒廃化し、誰も耕作していない	集落	0 %

(2) 集落の農用地の状況

ア 最近5年間の集落の農用地の状況の変化

	集落数	割合
① 荒廃した農用地がある	6 集落	75 %
② 作付けしない農用地がある	7 集落	88 %
③ 転用された農用地がある	1 集落	13 %
④ 林地化（植林）された農用地がある	集落	0 %
⑤ 景観作物の作付けや放牧等の粗放的利用されている農用地がある	集落	0 %
⑥ 担い手から所有者に返還された農用地がある	集落	0 %
⑦ 担い手に貸し付けされた農用地がある	2 集落	25 %
⑧ 鳥獣被害が発生している	4 集落	50 %
⑨ 災害による被害を受けた農用地がある	1 集落	13 %
⑩ 基盤整備された農用地がある（令和2年4月以降）	集落	0 %
⑪ 以前と特に変わらない（令和2年4月以降）	1 集落	13 %
⑫ その他	集落	0 %

イ 集落の農用地の5年後の荒廃状況

	集落数	割合
① 集落の農用地の1割未満が荒廃する	1 集落	13 %
② 集落の農用地の1～3割が荒廃する	4 集落	50 %
③ 集落の農用地の3～5割が荒廃する	1 集落	13 %
④ 集落の農用地の5割以上が荒廃する	2 集落	25 %
⑤ 荒廃化しない	集落	0 %

2の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・大半の集落で、農用地が荒廃化しており、作付けしておらず、鳥獣被害を受けている。このままの状態が続くのであれば、荒廃化が拡大してしまうため、事業への取組支援が早急に必要である。

2の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・事業への取り組みがない集落では、農地の荒廃化が進んでいる、進みつつある状況が分かる。
・多くの集落で農地の荒廃が拡大している。早期に事業への取組支援が必要（老廃が見込まれる様な所を、耕作・整備に取り組めば大きく加点されるなど）

3 中山間地域等直接支払制度の認知度

(1) 中山間地域等直接支払制度を知っているか

	集落数	割合
① 聞いたこともあり、少しは制度の内容を知っている	4 集落	50 %
② 制度があることは知っているが、内容は知らない	3 集落	38 %
③ 知らない	1 集落	13 %

(2) 中山間地域等直接支払制度が集落の話合いで出たことがあるか

	集落数	割合
① 集落で中山間地域等直接支払制度の話が出たことがある	2 集落	25 %
② 出たことはない	6 集落	75 %

(3) 中山間地域等直接支払制度に取り組まなかった理由

	集落数	割合
①集落内の合意が取れなかったため	1 集落	13 %
②交付金の返還等の要件が厳しかったため	1 集落	13 %
③事務手続きが負担となるため	1 集落	13 %
④制度の対象となる農用地の要件を満たさなかったため	1 集落	13 %
⑤取り組むに当たって、中心となるリーダーがいなかったため	1 集落	13 %
⑥農家が高齢化しており、5年間続ける自信がなかったため	集落	0 %
⑦地域農業の中心となる者がいなかったため	2 集落	25 %
⑧農業収入が見込めなかったため	1 集落	13 %
⑨鳥獣被害が増加していたため	2 集落	25 %
⑩近隣の集落も取り組んでいなかったため	集落	0 %
⑪ほ場条件が悪いため	集落	0 %
⑫中山間地域等直接支払制度がなくても農用地の維持・管理が可能であるため	集落	0 %
⑬その他	集落	0 %

(4) 中山間地域等直接支払制度に取り組む意向の有無

	集落数	割合
①ある	1 集落	13 %
②ない	7 集落	88 %

3の(1)から(4)について都道府県の所見【必須】

・ほとんどの集落で本事業について聞いたことがあるとの回答だったが、集落それぞれに課題があり、取り組む意向がない集落が多かった。集落毎に、事業へのフォローを行う必要がある。

3の(1)から(4)について第三者機関の意見【必須】

・制度の内容が知られていないようなので、まずは、制度を知ってもらうことから始めることが大事。
・集落毎の課題に寄り添い、事業への理解を深めてもらう必要がある。課題を解決していくことで事業に取り組む集落を支援したい。
・本取組を行うメリットをわかりやすく周知する取組が重要である。

V-5 市町村へのアンケート調査結果の評価

1 第5期対策の中山間等直接支払制度の効果

(1) 荒廃農地の発生・防止への貢献の程度

	市町村数	割合
①かなり貢献した	4 市町村	80 %
②一定程度貢献した	5 市町村	100 %
③やや貢献した	市町村	0 %
④貢献していない	市町村	0 %

(2) 本制度の効果

	協定数	割合
①荒廃農地の発生防止	9 市町村	180 %
②水路・農道等の維持、地域の環境が保全された	8 市町村	160 %
③農業機械等の共同利用により作業が効率化した	1 市町村	20 %
④農業（農外）収入が増加した	市町村	0 %
⑤集落営農の組織化・法人化、新規就農者等の担い手を確保（増加）した	市町村	0 %
⑥担い手への農地の集積・集約化が進んだ	1 市町村	20 %
⑦鳥獣被害が減少した	3 市町村	60 %
⑧荒廃農地を再生した	市町村	0 %
⑨都市住民等との交流が増加した	市町村	0 %
⑩定住者等を確保した	市町村	0 %
⑪地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）を開始した	1 市町村	20 %
⑫集落の寄り合いや行事等の集落機能が維持された	2 市町村	40 %
⑬その他	市町村	0 %
⑭特に効果は感じられない	市町村	0 %

(3) 本制度の必要性

	協定数	割合
①現行制度を維持し、制度を継続する必要がある	5 市町村	100 %
②制度の見直しを行い、継続する必要がある	4 市町村	80 %
③制度を廃止しても構わない	市町村	0 %

1の(1)から(3)について都道府県の所見【必須】

・本事業を活用することで、荒廃農地の発生防止等に貢献している。その一方で、事務負担について権限等の制度見直しの意見が上がっている。本事業を推進するためにも、事務負担を軽減する制度検討が必要と思われる。

1の(1)から(3)について第三者機関の意見【必須】

・荒廃農地発生防止、水路・農道等の維持、地域環境の保全に効果を発揮したことが確認できる。
 ・一定の効果がえられるため、取組への支援に厚みをかけ、制度を継続していただきたい。
 ・事務負担の制度見直しが必要
 ・本取組の成果が認められている。一方で地域の持続の危機感も高まっている。集落の状況に応じたきめ細かい対応が必要である。

※ アンケート対象の市町村数が5未満の都道府県は、「V-5 市町村へのアンケート調査結果の評価」中の「都道府県の所見」と「第三者機関の意見」は省略可能

2 本制度の改善点等

(1) 本制度の改善点

	協定数	割合
①対象地域の要件緩和	3 市町村	60 %
②傾斜区分の要件緩和	3 市町村	60 %
③一団の農用地（1ha以上）の要件緩和	2 市町村	40 %
④協定活動期間（5年間）の緩和	4 市町村	80 %
⑤必須活動の内容の緩和	1 市町村	20 %
⑥集落戦略の内容の簡素化	6 市町村	120 %
⑦集落マスタープランの活動方策の内容の見直し	市町村	0 %

⑧交付単価の増額	3	市町村	60	%
⑨加算の充実		市町村	0	%
⑩交付金返還規定の緩和	1	市町村	20	%
⑪協定書様式・申請手続きの簡素化等の事務負担の軽減	8	市町村	160	%
⑫その他	1	市町村	20	%

(2) 集落や農用地を維持するための支援や対策

	協定数	割合
①農業の担い手を確保するための支援	9 市町村	180 %
②担い手への農地の集積・集約化のための支援	6 市町村	120 %
③地域外からの定住者等を確保するための支援	1 市町村	20 %
④集落協定の広域化や統合に対する支援	1 市町村	20 %
⑤鳥獣害対策に対する支援	3 市町村	60 %
⑥高収益作物の生産やブランド化、農産物加工に対する支援	市町村	0 %
⑦機械の共同利用や農作業の効率化に対する支援	2 市町村	40 %
⑧地域での生活支援活動（高齢者世帯への声掛け、子どもの見守り、買い物支援、雪かき・雪下ろし等）に対する支援	市町村	0 %
⑨地域の各種団体と連携・協力し、地域の農用地を守る仕組みを構築する取組への支援	1 市町村	20 %
⑩都市部の組織や市民との交流活動等や地域情報を発信するための支援	市町村	0 %
⑪地域の活動をサポートする組織や人材を確保するための支援	2 市町村	40 %
⑫農業機械の購入、農業用施設や農産加工施設等の整備に対する支援	1 市町村	20 %
⑬傾斜地において、安全に農作業できる農業用機械の購入に対する支援	4 市町村	80 %
⑭その他	1 市町村	20 %
⑮特になし	市町村	0 %

2の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・協定者の高齢化により事務処理を市町で対応・支援しており、協定及び市町にも負担になっている。事務負担軽減（書類の簡素化）する制度改革が望ましい。また、活動を継続していくために担い手等の人材に関する支援が必要である。

2の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・本制度は、集落のコミュニティをベースに多面的機能を有するのうちの耕作放棄の抑制からスタートし、多面支払いの登場とともに、少しずつ役割を変化させてきた。集落のコミュニティ事態が脆弱化している中で、担い手の育成や生活支援等、総合的な地域振興とも組み合わせるよう、制度の見直しは必須と思われる。事務作業の大変さは、DXの進展とともに改善されることを期待したい。例えば、現地でスマホで写真をとれば、それで報告が完了する等、便利な仕組みが増えるようにしていただきたい。

- ・事務負担の軽減は必要で、そのための制度改革と人材確保を図っていきたい。
- ・人材に関する支援も大学・地域おこし協力隊・NPO等とコラボできる支援
- ・事務負担を軽減することが第一である。また、適用面積を農地に限っているが、中山間での農業の役割は、対応農地以外にも多様な生態系サービスを担っていることから、よりマクロな支店での中山間振興を考える必要がある。

3 今後の農地利用や集落機能等

(1) 次期対策

ア 次期対策における協定数

	協定数	割合
①おおむね現状維持が見込まれる	3 市町村	60 %
②若干の減少が見込まれる	4 市町村	80 %
③かなりの減少が見込まれる	2 市町村	40 %
④ほぼすべての協定の廃止が見込まれる	市町村	0 %
⑤協定の統合・広域化が進むことが見込まれる	市町村	0 %
⑥新規の協定や活動再開の協定により、協定数の増加が見込まれる	市町村	0 %

イ 協定数の減少要因

	協定数	割合
①活動の中心となるリーダーの高齢化のため	4 市町村	80 %
②協定参加者の高齢化による体力や活動意欲低下のため	4 市町村	80 %
③地域農業の中心となる者がいないため	2 市町村	40 %
④農業収入が見込めないため	2 市町村	40 %
⑤鳥獣被害増加のため	市町村	0 %
⑥事務手続きが負担なため	3 市町村	60 %
⑦交付金の遡及返還が不安なため	2 市町村	40 %
⑧統合の相手先となる協定が近隣にないため	1 市町村	20 %
⑨協定内の意見がまとまらず、合意形成が困難なため	市町村	0 %
⑩その他	市町村	0 %



ウ 集落協定の統合・広域化の推進方針

	協定数	割合
①小規模集落協定に対して周辺の集落協定への統合を推進する	市町村	0 %
②高齢化が進んでいる集落協定に対して周辺集落協定への統合を推進する	1 市町村	20 %
③集落協定の規模等に関わらず統合を推進する	市町村	0 %
④集落協定に対して周辺の未実施集落の取り込みを推進する	市町村	0 %
⑤未実施集落に対する協定締結を推進する	市町村	0 %
⑥担い手に対して個別協定に取り組むことを推進する	市町村	0 %
⑦相談があれば対応するが、特段の推進は考えていない	8 市町村	160 %
⑧その他	市町村	0 %

(1) のアからウについて都道府県の所見【必須】

・次期対策では、現状維持又は減少が見込まれると回答があったため、今後、継続の支援や広域化へのアプローチが課題である。

(1) のアからウについて第三者機関の意見【必須】

・それぞれの集落において、話し合いを深め、取組を充実させることに期待したい。
 ・引き続き広域化と継続するための支援に厚みをかけたい。
 ・周辺集落協定への統合など賛成
 ・取組減少は、地域の危険シグナルであるため、残された期間で、①事務の簡略化、②リーダーの育成、③取組の啓蒙を早急に進める必要がある。

(2) 5年後（令和10年）の農用地の利用、集落機能等

ア 農用地の荒廃状況

	協定数	割合
①かなり荒廃が進む	2 市町村	40 %
②やや荒廃が進む	7 市町村	140 %
③荒廃化しない	市町村	0 %
④荒廃農地の解消が進む	市町村	0 %

イ 集落の寄り合いの回数

	協定数	割合
①今よりも増加する	市町村	0 %
②今と変わらない	2 市町村	40 %
③今よりも減少する	7 市町村	140 %

ウ 集落の各種行事の回数

	協定数	割合
①今よりも増加する	市町村	0 %
②今と変わらない	2 市町村	40 %
③今よりも減少する	7 市町村	140 %

(2) のアからウについて都道府県の所見【必須】

・全ての市町で荒廃が進むと回答があり、市町村との今後の方針について確認していく必要がある。集落の活動も減少していくとのことなので、集落維持へのアプローチが重要である。

(2) のアからウについて第三者機関の意見【必須】

・中山間直払制度にとどまらない、総合的な検討が必要。
 ・農地の荒廃が進む可能性は大きい。持続可能な農業、集落を形成、維持していくためにも支援が必要だ。
 ・農地荒廃、コミュニティの喪失、行事など激減が危惧される。集落の維持について、他地域からの参入なども視野に入れる必要がある。

4 集落戦略

(1) 集落戦略作成の推進に当たっての苦労

	協定数	割合
①話し合う場を設けることが困難であった	5 市町村	100 %
②協定参加者以外の参集に苦労した	2 市町村	40 %
③話し合いをリードする者の確保など、話し合いを進めることに苦労した	3 市町村	60 %
④担い手が耕作する農地を明確化することに苦労した	1 市町村	20 %
⑤草刈り等の管理のみを行う農地（粗放的利用する農地）を明確化することに苦労した	市町村	0 %
⑥地域の農業を担う担い手の目途が立たない	3 市町村	60 %
⑦地域の寄り合いや行事を主導するリーダーの目途が立たない	市町村	0 %
⑧高齢化が進み、10年後の農用地の将来像を考えること自体が難しかった	5 市町村	100 %
⑨協定を広域化したため、どの範囲でどうやって集落戦略を作成するかなどの調整に苦労した	市町村	0 %
⑩その他	1 市町村	20 %
⑪特になし	市町村	0 %

(2) 集落戦略作成の推進に当たっての工夫

	協定数	割合
①アンケートや戸別訪問等により、話し合いの方法を工夫した	3 市町村	60 %
②話し合いをリードする者を活用して進めた	1 市町村	20 %
③関係機関の協力を得て進めた	1 市町村	20 %
④協定参加者が、今後も健在であることを前提として作成を進めた	3 市町村	60 %
⑤担い手やリーダーの確保、農地中間管理機構への農地の貸付等に取り組んでいくことを前提に作成を進めた	1 市町村	20 %
⑥集落戦略の作成範囲を分割し、一つの話合いの単位を小さくして作成した	市町村	0 %
⑦その他	市町村	0 %
⑧特になし	1 市町村	20 %

4の(1)及び(2)について都道府県の所見【必須】

・新型コロナウイルスにより集まれず、話し合いが進まない状況であった。今後、高齢化により、話し合い、事務作業、取扱が難しくなってくるので、広域化を視野に入れた支援が必要である。

4の(1)及び(2)について第三者機関の意見【必須】

・「10年後の農用地の将来像を考えること自体が難しかった」との回答をどのように受け止めるか、県としても議論を重ねる必要がある。すぐに答えが出る問題ではないが、例えば、人口減少が先行して進んだ地域でどのような取組がなされたのか情報収集をしたり、視察を重ねたりする機会があって良いのでは。
 ・コロナ禍の影響で話し合いの場を設けることが難しかったのだろうが、コロナ対策への知見が蓄積され、場を設けることが可能となってきた。広域化を視野に支援していきたい。
 ・広域化と簡略化を進めながら、集落の個別の状況に勘案する非常に難しい取組であるが、行政の力の見せ所であり、益々の推進を期待する。

5 農村RMOの推進の意向

	協定数	割合
①現在も推進しており、今後も推進する予定	市町村	0 %
②現在は推進していないが、今後は推進する予定	市町村	0 %
③現在は推進しているが、今後は推進しない予定	市町村	0 %
④現在も推進していないが、今後も特に推進しない予定	9 市町村	180 %
⑤その他	市町村	0 %

5について都道府県の所見【必須】

・県内の市町は、独自にバスを出したり、移動販売を行っているため、協定の構成員は、RMOの必要性を感じていない。市町へRMOの必要性をより周知する必要がある。

5について第三者機関の意見【必須】

- ・農村RMOのような、農村の人々にとってわかりづらいコピーはいかがかと思う。地域にとって必要なサービスを充実し、そこで暮らしていける環境を様々に整える取組は、従来進められてきたところであり、「進めていたら結果的にRMOだったね」という位置づけでも良いのでは。必要に王子、要望に合致する事業があるのであれば、活用しても良いと思う。
- ・市町への支援に取組ことで代替したい。
- ・農村RMOについての詳細が不明の状況もある。広域化することで得られるメリット、失うデメリットを提示し、個々の集落毎の対応が求められる。